

GEKIDAN KAITAISHA

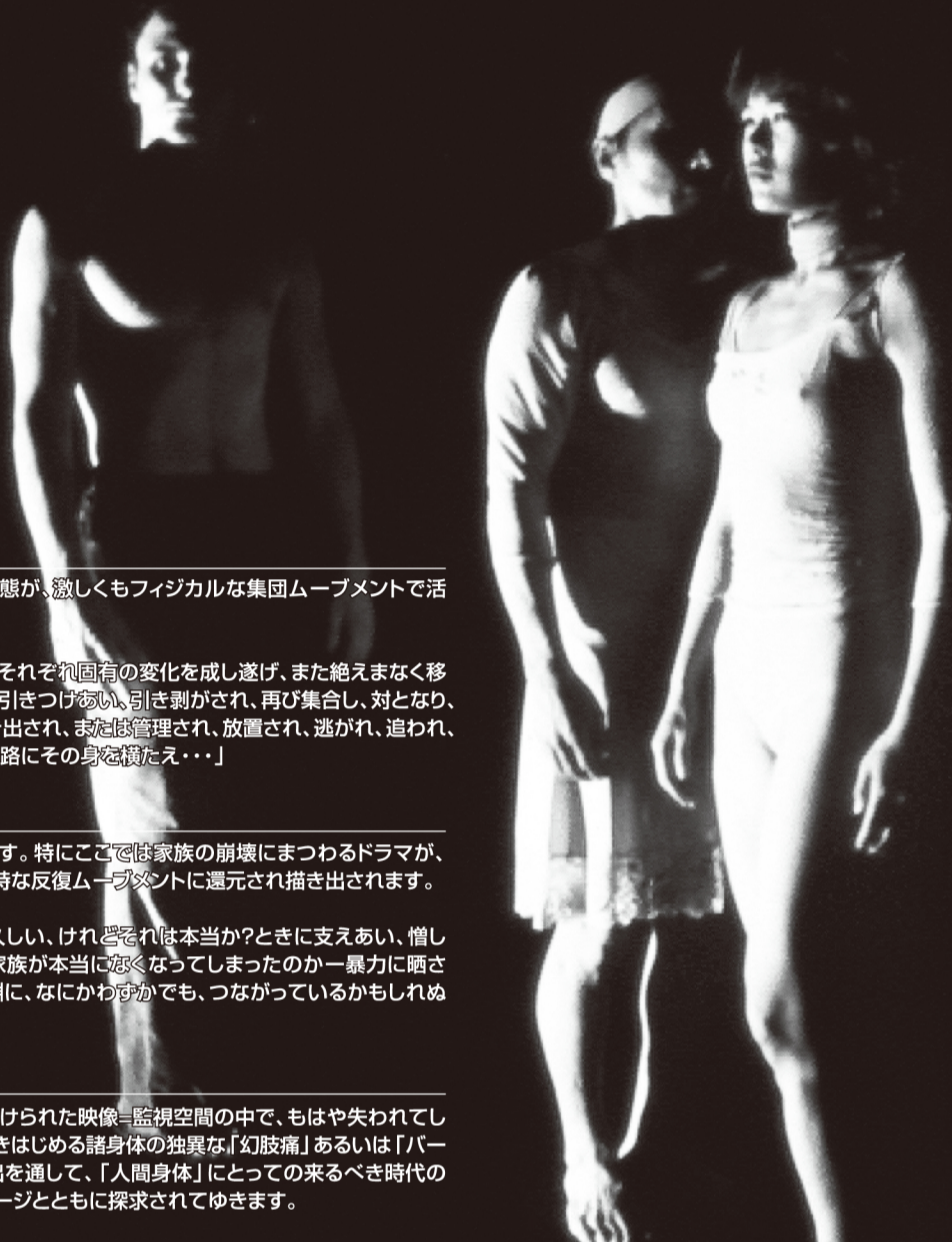
News Letter

Vol.2 June 2001

2001年6月7日発行(不定期発行)
 発行人/清水信臣
 編集人/秦 岳志
 Design/STUDIO TERRY
 発行/劇団解体社
 東京都文京区湯島2-4-8 五十嵐ビル1F
 Tel/Fax:03-5802-5387
 e-mail:gekidan@kaitaisha.com
 http://www.kaitaisha.com/



●2001年5月「バイバイ/未開へ」稽古風景(撮影=宮内勝)



新作「バイバイ/未開へ」 いよいよ公演スタート!

6/15~24 森下スタジオ

約2年ぶりの国内本公演が生まれました。今年秋のヨーロッパ・アメリカツアーを前にしたワールドプレミア公演です。

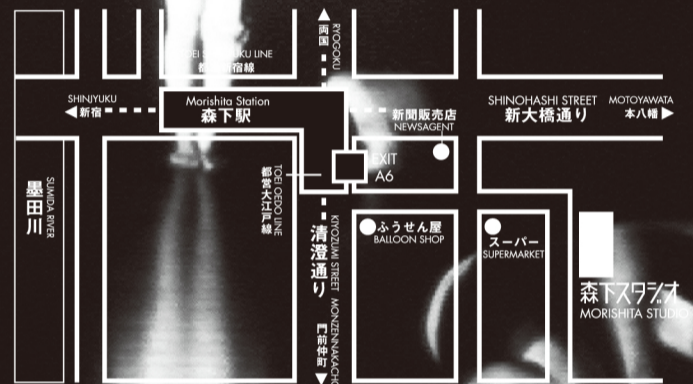
ジェンダー、内戦、難民、ドメスティックバイオレンス、監視、グローバリゼーション、家族…。解体社独自の「身体演劇」が、現代を生き抜くためのキーワードを正面から扱った意欲的な作品です。

強力な客演陣の参加に加え、アトリエ公演での数々の実験で辿り着いた「未開」の境地に、新たな解体社を発見していただけるはず。みなさんのお越しを心よりお待ちしております!

2001.6.15(Fri)-17(Sun) 6.21(Thu)-24(Sun)

開場 19:00 / 開演 19:30 (日曜日のみ開場 15:30 / 開演 16:00)

Door Open 19:00 / Start 19:30 (Sunday: Start 16:00)



森下スタジオ ©スタジオ 東京都江東区森下3-5-6
 Morishita Studios - Studio C 3-5-6, Morishita, Koto-ku, Tokyo
 Phone: 03-5624-5952 (期間中のみ / from 9-24 June)

チケット取扱
 チケットぴあ 03-5237-9999/9988 (Pコード: 312-659)
 劇団解体社 03-5802-5387
 解体社webショップ http://www.kaitaisha.com/

一場 / 群れ

都市の路上における諸身体の様態が、激しくもフィジカルな集団ムーブメントで活写されます。

「路上に集い、かたまり、分散し、それぞれ固有の変化を成し遂げ、また絶えまなく移動し、疾走し、圧力となり、互いに引きつけあい、引き剥がされ、再び集し、対となり、列となり、ときに軍隊と化し、吐き出され、または管理され、放置され、逃がれ、追われ、限界にいたり、強迫と慰安の夜の路にその身を横たえ…」

二場 / 血と地

共同体の解体を考察するものです。特にここでは家族の崩壊にまつわるドラマが、静謐で内面的強度をたたえた独特な反復ムーブメントに還元され描き出されます。

「近年、家族の崩壊が叫ばれて久しい、けれどそれは本当か? ときに支えあい、憎しみあい夢をわかちあった、あの家族が本当になくなってしまったのか? 暴力に晒された諸身体を露呈を通して、深淵に、なにかかわすか? でも、つながっているかもしれぬ「絆」を表したい」

三場 / 人体の未来

「ヴィジュアル・アリーナ」と名づけられた映像=監視空間の中で、もはや失われてしまった「肢体の記憶」を求めて蠢きはじめる諸身体。あるいは「バーチャル・アクチュアリティ」の現出を通して、「人間身体」にのっての来るべき時代の到来が、おぞましくも美しいイメージとともに探求されてゆきます。

多彩なゲストとのアフタートーク

連日上演終了後に、様々な分野からの多彩なゲストを迎えて、劇団員とのアフタートークを開催します。質疑応答の時間もたっぷりとする予定です。過去をふりかえる「解体! 解体社」展とは逆に、解体社の「これから」をゲストや観客のみなさんと語り合えればと思います。

【トークゲスト】

●6.16(Sat) 越川道夫さん(映画宣伝会社「スローラーナー」代表)
 日本一忙しい映画宣伝会社と言われる「スローラーナー」。最近の公開作に「花様年華」(ウォン・カーウァイ監督)や「イディオッツ」(ラース・フォン・トリアー監督)などがあります。越川さんは過去に「劇団38.5」を主宰していたこともある元演劇人。8月には自らプロデュースを手がけた、中上健次をめぐるドキュメンタリー「路地へ」(青山真治監督)が渋谷ユーロスペースにて公開予定です。

●6.17(Sun) 「ITI養成プログラム~演劇の再生」参加の学生のみなさん
 国際演劇祭「Theatre of Nations」を主催する ITI(国際演劇協会/ユネスコの下部組織)日本センターが一昨年より始めた「演劇の再生」は、演劇に興味のある学生を対象にした観客養成プログラム。上演後、参加メンバーからの鋭い批評をベースに、劇団員をまじえてのディスカッションを行います。
 ※「演劇の再生」についてのお問い合わせは、国際演劇協会事務局 (Phone: 03-3478-2189 / e-mail: iti@ceres.dti.ne.jp) まで。

●6.22(Fri) 和田充夫さん(慶応義塾大学ビジネススクール教授)
 慶応義塾大学アートセンター(アートをひらく)講師担当。学生時代は歌舞伎研究会に所属。現代演劇にも造詣が深く、著書に宝塚や劇団四季など商業演劇の現場を調査した「関係性マーケティングと演劇消費」(ダイヤモンド社)などがあります。

●6.23(Sat) 小山田徹さん(美術家)
 京都市立芸術大学在学中より、パフォーマンスグループ「ダムタイプ」の中心メンバーとして活躍。近年はダムタイプの活動を離れ、コミュニティセンター「アートスケープ」や、非営利喫茶店「バザールカフェ」など、空間共有プロジェクトを数多く手がけています。

●6.24(Sun) 北島行徳さん(作家・障害者プロレス「ドッグレッグス」主宰)
 障害者プロレスの誕生から現在までを描いた処女作「無敵のハンディキャップ」(文芸春秋)で第20回講談社ノンフィクション賞受賞。健常者もリングに上がり障害者と対戦するという挑発的な試合形式は、様々な既存概念を覆す新たな表現の可能性として注目されています。

※事情により予定が変更になる場合がございます。あらかじめご了承下さい。

DECONSTRUCTION OF KAITAISHA 「解体! 解体社」展



●2001年5月「バイバイ/未開へ」稽古風景(撮影=宮内勝)

INTERNET LIVE!

全てのステージを インターネット生中継!

上演はもちろん、各種イベント、仕込みやリハーサルにわたるまで、期間中最大限に劇場をインターネット生中継致します。日々変化していく解体社の舞台を楽しむもよし、連日行うアフタートークだけ見るもよし、あわただしい仕込みの現場をながめるもよし。実験的な企画ですので、みなさんそれぞれの解体社の新しい楽しみ方を発見してください。



6月11日(月)以降 連日13:00~21:30
<http://www.kaitaisha.com/>



●1999年4月 バイバイ- 進化の世紀へ (撮影=宮内勝)

Member Interview

笛田宇一郎 / Fueda Uichiro

「バイバイ／未開へ」に客演として参加している笛田宇一郎さんは、数年前までは劇団SCOTの看板役者。「ジュリエット」の演技では、読売演劇大賞優秀男優賞を受賞。70年代初頭から演劇一筋で生きてきた笛田さんの目に、解体社の芝居はどう映り、なぜ一緒に活動する決意をされたのでしょうか。(全文はホームページでご覧頂けます。)



笛田 SCOTに居た間は、利賀だとか水戸だとか、あるいは海外に行ってる事が多かったでしょ。辞めて、やっぱりようやくいろんな東京の劇団を見れるようになったんだよね。そこで解体社をひざしぶりに見たんだけど、オレが「演劇ってのはこういうものじゃないか」と思ったことと随分オーバーラップする所があったんだよね。

単純な言い方をしちゃえば、例えば文学っていうのは、自殺するか発狂するしかないっていうような「内面」のリアリティーが問われるわけで、「ハムレット」なんかも大体そんな風に文学的に理解されるわけ。でも演劇っていうのはそうした「内面」を抱え込んでしまう「劇的」なシチュエーションを生きる人間の「身体性」を問う。いくらハムレットのセリフがしゃべられたって、俳優が強度な身体性を生きてくれないかぎり、「ハムレット」が演劇として成立することなんかありえない。解体社はこの強度な身体性を極めて純粋なカタチで追求していると思う。だから言葉はほとんど語られないけど、解体社の舞台はオレにとってはとっても演劇的なの。この身体がベケットとか別役のセリフを発したら、ほんとすごいことが起こるんじゃないかってオレなんか思っちゃうよね(笑)

例えば、引退前の落合がバッテリーボックスに入ってスーツと構える姿なんか、すごく演劇的だよ。つまらない芝居見るよりよほどスポーツの方が演劇的で、見てると元気になれると思う。でもたまには、巨人戦のナイターのかわりに解体社見に行くっていうのも悪い事じゃないんじゃないかな(笑)。オレは、解体社がやってる芝居ってのは、本当の意味で大衆の今の状況と向き合ってると思うんだよね。阪神大震災や地下鉄サリン事件以降の、今の「臨界点を越えちゃった状況」に拮抗している芝居をやってる。だから一見ヘンなことをやってるように見えるかもしれないけど、もしかしたら現代を生きていく力や糧を得る事ができるんじゃないかな。

「25年前、早稲田小劇場(現劇団SCOT)に入団した頃にもどった感じだよ」と笑って話す笛田さんが吹き込んでくれた「若さ」は解体社にとって全く予想外のプレゼントでした。

笛田 来年からは、解体社のメンバーと一緒にFreeSpaceキャンパスで笛田宇一郎演劇事務所の連続公演をやりたいと思ってる。その意味で、今回の作業は、とりあえずの第一歩。だから今回も、1回だけの客演というつもりは全くないんだ。解体社は、清水さんに全然権威主義的なところが無いし、今となっては珍しい、本当の意味での集団創作作業を続けている数少ない劇団だと思う。これから一緒に、芝居が「現代演劇」の内部に留まらず、もっと社会的な所に出ていくためのムーブメントが作れればいいよね。

(2001年5月21日@FreeSpaceキャンパス-BarLittle 構成:はた)

研修生アダム・プロノフスキと解体社との交流の途中報告パーティー

Immersion into KAITAISHA 報告

4月26日、オーストラリア大使館を会場に、シドニーからやってきたパフォーマー、アダム・プロノフスキと解体社の活動報告パーティーを行いました。

前半は客席を配置せず、観客の間を縫ってのパフォーマンス。その後アダムを中心に、解体社での研修の途中経過報告と簡単なトークショー。最後にオーストラリアワイン飲み放題(!)のワイン・パーティーと続きました。主催者側が予想していた人数の倍もの来客に終始でんでご舞いでしたが、おかげ様で大盛況のパーティーとなりました。(この日、アダムが行ったスピーチの内容はホームページでご覧いただけます。)



●2001年4月26日 Immersion into KAITAISHA (撮影=村岡秀弥)

解体社webショップ開店!

チケット予約はもちろん、公演ビデオや写真集、ポスターまでが手軽にオーダーできる「解体社webショップ」がオープン! 今月の目玉は新作「バイバイ／未開へ」公演ビデオの先行予約です。ぜひ一度お気軽にお立ち下さい。

●<http://www.kaitaisha.com/>



高性能ビデオプロジェクター、格安レンタルします!

新作「バイバイ／未開へ」上演へ向けて、明るくて綺麗、しかもコンパクトな高性能プロジェクター、EPSON ELP-7700(3000ANSIルーメン/XGA対応)を購入しました。このプロジェクターを大切に使用して下さる方に格安でレンタルさせていただきます。現在1日3万円程度で考えていますが、ご予算にあわせてご相談に応じます。貸し出しスケジュールなど詳細は劇団事務所までお問い合わせ下さい。



News Letter

Vol.2
June 2001

ヨーロッパ・アメリカツアー2001 約3ヶ月にわたるワールド・ツアー

いよいよ8月下旬より、約3ヶ月のヨーロッパ・アメリカツアーがはじまります。以下が2001年6月現在決定しているスケジュールです。※まだ一部変更の可能性がありますので、現地で観劇予定の方は劇団、ないし現地受け入れ先まで事前にスケジュールをお確かめ下さい。

【ツアースケジュール】(2001年6月現在)

■ドイツ

ハンブルグ	Kampnagel LAOKOON Festival	9/1-2
ザールブリュッケン	Schichtwechsel Festival	9/7
デュッセルドルフ	Tanzhaus	9/14-15
フランクフルト	Mousonturm	9/20-22

■アメリカ

ニューヨーク	Japan Society	9/27-29
--------	---------------	---------

■英国 (Japan2001参加)

ロンドン	ICA	10/10-13
マンチェスター	Green Room	10/18-19
ブライトン	Gardner Arts Centre	10/23-24
Aberystwyth	Aberystwyth Arts Centre	10/27
カーディフ	Chapter Arts Centre	11/1-3
St.Donats	St.Donats Arts Centre	11/6-11
グラスゴー	CCA	調整中



●ドイツ・ハンブルグ/Kampnagel

今後の活動予定

2001年

- 8月 書籍「解体社1991-2001(仮)」出版
- 8月下旬~11月 Bye-Bye ヨーロッパ・アメリカツアー2001

2002年

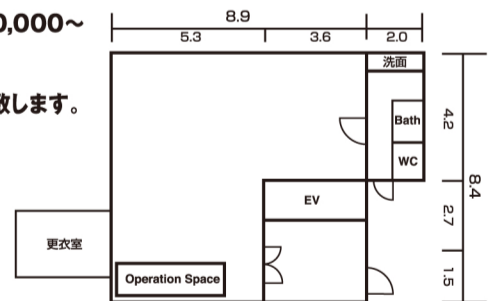
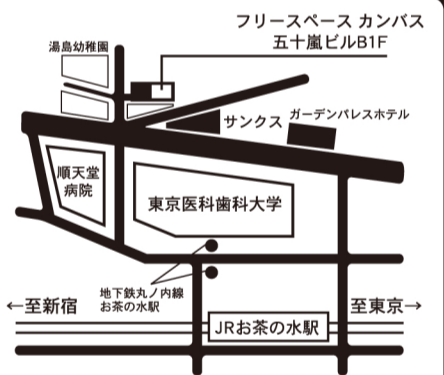
- 1月 解体社ビデオシアター @ FreeSpaceキャンパス
- 3月8日~9日 De-Control @ 富山県立小劇場「オルビス」
※その他、金沢など北陸地方での追加公演を現在計画。
- 5月 笛田宇一郎演劇事務所公演「ハムレット／臨界」@FreeSpaceキャンパス
- 5月下旬 Journey to Con-Fusion @ Next Wave Festival, Melbourne
※一昨年より継続中の、メルボルンのパフォーマンスグループ「NYID」とのコラボレーションプロジェクト完結編。3回目にしてついに一つの「作品」としての発表を行う予定です。
- 2002年後半 新シリーズ「Neuro System(仮)」@シアターAmbiru
ワークショップ「Last Body Lab.」第二期 @ FreeSpaceキャンパス
Bye-Bye海外ツアー2002(計画)

FreeSpaceキャンバス 好評レンタル中!

お茶の水駅から徒歩5分!新開通の12号線改め大江戸線も通る本郷三丁目駅から徒歩7分!の好立地です。演劇やダンスの稽古に、ワークショップに、オフラインミーティングに、そしてもちろん上演会場としてぜひご利用下さい。石垣島出身シェフの特別料理でのパーティーは毎回大変好評です。(これを目当てに来る人もいますほど...) 安い!うまい!使いやすい!と三拍子そろった FreeSpaceキャンバスをよろしく願います。

- 公演時使用料金
仕込み・ゲネプロ=¥20,000~/本番=¥40,000~
- レッスン時(公演以外)使用料金
¥1,500/h~
- ※その他パーティー等、ご要望に応じて見積もり致します。

FreeSpaceキャンバス
東京都湯島2-4-8 五十嵐ビル地下
Tel/Fax:03-5802-5395
e-mail:canvas@kaitaisha.com
<http://www.kaitaisha.com/canvas.html>



《編集後記》

●「解体社ももっと孤高の存在であるべきじゃないか」との意見を尻目に、劇団の内幕を暴露(?)するかのようなNews Letter Vol.2を発行する運びとなりました。新作への集客を増やしたいという切実な事情は別にして、このような一見ベタな「通信」を発行している背景には、解体社の舞台を語る為の言葉がこれまであまりに不足していた、という意識があります。確かに、一言で説明できる作品ではありませんし、語れば語る程逆につまらなくなっていく可能性はあるでしょう。その一方で、昨年行ったDe-Control VI シアターセミナーでの観客のみなさんとの対話は非常に楽しいものでした。まず、どんなに不器用な形ででも語り始めることが、これからの活動には必要だと感じています。新作公演のアフタートークでも、最大限に質疑応答の時間をとる予定です。みなさんの素朴な疑問や、ふと浮かんだご意見などが伺えるのを楽しみにしています。

●6年前、「TOKYO GHETTO」上演中、まわりの観客が緊張して真剣に観ている中、始終爆笑していた一行がありました。それは偶然東京に来ていたダムタイプのメンバーだったのですが、その大爆笑が解体社メンバーにとってはとても嬉しくて、上演後の飲み会では大いに盛り上がったのを覚えています。実際劇団員も稽古中は笑いをこらえるのに必死だったりするのです。その時お会いした小山田さんが今回の公演のアフタートークに、はるばる京都から来てくれることになりました。どうなる事か、今からとても楽しみです。

●劇団解体社では引き続き制作スタッフを募集しています。ホームページ作成や海外とのやりとり、舞台装置制作や公演の受付など短時間でも結構です、ぜひ一緒に芝居を作りましょう。ご興味のある方は劇団までお気軽にご一報下さい。(はた)

■ニュースレター購読登録のお願い

Vol.2まで、劇団の住所録に登録されている全員の方にお送りしてきましたが、今後は基本的に登録制とさせていただきます。購読を希望される方は、お手数ですが住所・氏名を、電話/ファックス/e-mailにてご連絡下さい。